

洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL (463) 3281 (代)

卒業記念号

平和確立をめざして

この愛と正義は、聖パウロがエフェソ人に書いた手紙に「キリストは、ご自分の肉体に於いて敵意という隔ての壁を取り壊し、ユダヤ人と異邦人の両者を、御自分に於いて、一人の新しい人間に造り

諸君の前途が強く、明るくなる
為には、神の御方（ヨハネ）の平和の祈りと父母に対する感謝の祈りをすることにあると思います。
諸君の前途に神の祝福が豊かにあることを祈りながら。

十六期生の皆様、御

した体育祭の事、まだ記憶に鮮か
とでは、それらは「進学校」のレッ
テルを破り棄てる流星の「勉強に
課外活動にしろ、総てに全力を尽
す人間を目ざせ」という教育方針
と兵に想い出の彼方に飛び去らう
としていきます。こういった想い出
は形こそなけれ、この上な確か
は二十六期の絆となり我々を強く
とせよう、たゞどのような道
を歩もうとも、社会に役立つため
に各自の資質と個性を充分に發揮
して努力してゆきます。

さて、先輩の皆さん、我々の最
上級生としての最期の言葉を中心に
刻んで下さい。自分は一体何の為
に流星、学んだのか、何の為くら
う文化祭に参加したのかと、自

結びつけてゆくのです。青春時代は、こういう人生で最も大事な時間を単なる受験校でない洛星で過ごせたことを本当に感謝します。現在の社会では高校は予備校化し、中学は校内暴行に荒れ教師達はさうりマン化していています。しかし人間味あふれる教育方針が変わらぬ限り洛星は不滅です。我々は洛星に学び、洛星の責任を負う準備をして下さい。洛星と我々の価値観や判断は必ずしも一致せず、しかし社会と我々の価値観とは何となく絶望の底につき落ちることでしよう。打ちひしがれ悩んで洛星で築いた自我の不完全さを知り、我々はそれを補って初めて社会に適応できるのであります。今、門出に際し我々が必要とするものは試験です。試験を避けたいと妥協し夫が与えた才能を磨く分には疑問を持たねばならないことは、この上なく空々しく辛い事です。だから洛星にいるうちに自分の総てを賭ける価値のある目的、自分を燃え立たせる魅力のある人生の目的を見つけて下さい。自分は何がしたいのか、何に向いているのかこの洛星でつかんで下さい。そしてこの目的を実現する力を手に入れることです。確かに受験というものに高校生活は大きな圧迫をうけています。だからとつって無味乾燥な受験用の勉強ばかりするのは、掛け甲斐ない人生の三年を捨てるようなものです。本当に大切な勉強とは、本であれば人の話であれ、受け取った知識を自分のものとして新たに創造していくことです。勉強とは覚えることではありません、思考することなのです。

メ
ツ
セ
ー
ジ

人生とは何か、愛とは何か、こそ進化の頂点に立っているとされる人類が追求すべき、最も重要な課題ではないでしょうか。

——奥本先生

これらが人生の始まりです。余も他人に甘えず、持ち前の反（？）精神を發揮し、独立、独（？）から、人生に大切な本當の強が生まれるのです。自分だけの考えず、社会の爲に行動できるように目指して下さい。

——千葉先生

人は、自己の存在を希求します。自己は、孤たり得ないものであります。人類の広がりの中の己のあり方を考えて下さい。

—— 中村先生

春の野に羊網放たれ行く駒も
無暗に驟くる事はあるまじ

ルフ・コントロール

己が心の手綱をさげ、
御卒業お目出度う。
——北大路先生

ヤンチャでユニークな学年、私
にとって思い出深い学年でした。
事にもやる気充分、フアイトの
君、ご成功を祈ります。
——小笠原先生

は惜しいものです。大学でも奉
答でも、大に名物男たらんと
牛の様にゆつくりと、しかし着
に努力して下さい。(とかく馬
様に駈よやかに駈けたいもので
られど) (注、これは漱石が芥
に送った言葉からの盗作です)

——村上先生

卒業科目出度う。それぞれが自
して、勉学にスポーツに、初心
員を通して下さい。大鼓の音は
いただけしかならぬ。

——増田先生

時々は尋ねて来て下さい。京都
集、想い出通り。

——山根さん

(生徒部のお姉さん)

衣

と頭が悪くなる……と考へ方も最近いわれるようになってきた。これは、考へないでたゞ勉強の意味がないという考へ方をもつ人々の批判である。▽かたに「たゞ丸暗記のみ」はよくない。特に英語などではストロリの訳をテストのためだけに丸暗記したのである意味がない。暗記などいつていいのではない。しかし、自分で考へて、解釈し、そしてこんな訳し方もあるのだな先生の訳を聞くというのが理想であつてたゞ訳をそのままうつすという勉強の仕方よくないだろう。おしつけられた受身の勉強な

はたしないほうが自分のためなの
ある。▽その点で、共通、次な
は「答え」を覚えてしまえばよ
ために「考えない」という欠点
ある。ストーリーの例でもあけ
よるにあくまで「考える勉強」
しなればならないのである。

なれなれはまさにとこの思想の典型
なものではないだろうか。

△何人かの先生に「共通一次試
題」という形式をどう思われます
か」と聞いたところ「あんなん
どあか」「あまりよくないな
らう」と、五年したらなくなる
ものとおっしゃっていた。

△校長の主治「河、資周と

「とていつまでか、いややな。でもカシが
生と生徒では結構考え方に差が
あるようだ。ある生徒は「一次と
二次」と言方があるんでじゃまささ
」と量的に又句をいう人もいた
今年入学する中学一年生の頃に
もう共通一次はなくなるだろう
といわれる。このことは我々ほど
しても共通一次をうけねばなら
ないということと同じである。

どうしても高レベルの学校のみ
行こうとし、下のレベルの生徒
の対立が生れる。この事実を
都省はもっと真剣にうけとめる
べきではないだろうか。

近東・関(3D)